

2016年8月12日

オイシックス、世界で金メダルを目指す“車いすラグビー”をサポート 「日本ウィルチェアーラグビー連盟」とオフィシャルサプライヤー契約を締結 ～選手へ栄養バランスのとれた食材提供など、本業を生かした支援を実施～

オイシックス株式会社(東京都品川区、代表・高島宏平)は、一般社団法人日本ウィルチェアーラグビー連盟(埼玉県所沢市、会長・塩沢康雄)と2017年3月31日までのオフィシャルサプライヤー契約を締結し、日本代表などの活動をサポートしていきます。

ウィルチェアーラグビーとは、四肢に麻痺のある障害者が車いすで競技する障害者スポーツの1つです。車いすラグビー、クアドラグビーなどとも呼ばれており、車いす同士のぶつかり合いが許された競技です。1977年にカナダで考案され、欧米では広く普及している国際的なスポーツで、2000年のシドニーパラリンピックからは公式種目になりました。

現在、日本は世界ランキング3位ですが、本年6月に行われたカナダカップ国際ウィルチェアーラグビートーナメントにて、同1位のカナダに日本が初勝利をし、世界大会での金メダル獲得が期待されています。

(※ウィルチェアーラグビーのルールや特徴は2枚目の参考資料をご参照ください)

▼ウィルチェアーラグビー



■ なぜオイシックスが障害者スポーツをサポートするのか？

障害者スポーツは、認知度不足などからスポンサーがつきにくく、運営に課題を抱えていると言われています。一方、企業もメリットが少なければ継続的な資金援助は出来ません。しかし、企業の本業や強みが生きるサポートであれば、Win-Winとなり、継続的な支援が可能です。

オイシックスでは、本業を生かした社会問題の解決に向けた取り組みを、以前より実施しています。例えば、ヘルシーな食品の商品代金の一部が寄付金となり、アフリカなどの飢餓で苦しむ子供の給食になる「TABLE FOR TWO(テーブルフォーツー)」商品の販売、忙しい女性の家事の悩みの解決のため、時短献立キット「Kit Oisix(きつとおいしくす)」の展開をしています。

オイシックスでは、これらの経験を活かし、本業を生かしたサポートにより、日本ウィルチェアーラグビー連盟と継続的なパートナーシップを築きます。

■ サポート内容…選手へ栄養バランスのとれたOisix食材を提供

オイシックスでは、選手や競技が抱える課題に対し、「Oisix独自基準の安心安全な食材の取扱い」、「簡単調理で5種類以上の野菜がとれる料理キットの取扱い」、「インターネット活用スキル」などの本業により培われた強みを生かしたサポートを実施します。

選手や競技が抱える課題	サポート内容	オイシックスの強み
<選手> ・アスリートとしての食事の苦勞 <競技> ・競技の認知度が低い ・資金や人手不足により十分な広報活動が出来ない	1. 選手への食材提供 …遠征や合宿時などにOisixの栄養バランスのとれた食材や料理キットの提供 2. ファンづくりへの支援 …公式ホームページのリニューアルをサポート …壮行会、ファンミーティングなどの運営サポート …「Oisix」サイト内での選手や競技の紹介	・4500品以上あるOisix独自基準の安心安全な食材の取扱い ・簡単調理で5種類以上の野菜がとれるレシピと必要分の食材がセットになった料理キットの取扱い ・3温度帯物流による生鮮食品の配送機能 ・インターネットの活用スキルや、ネットワーク ・都心で行う収穫祭「東京ハーヴェスト」など、イベントの開催実績 ・「Oisix」の定期会員である11万人以上のアクティブなお客さま

オイシックス株式会社について

オイシックス株式会社(代表:高島宏平)は、「子どもに安心して食べさせられる食材」をコンセプトに、有機・特別栽培野菜、添加物を極力使わない加工食品など多様な食品と豊かで楽しい食生活に役立つ情報を、オンラインサイト「Oisix(おいしくす)」(<http://www.oisix.com/>)にて提供する事業を2000年6月より行っています。2013年7月からは、主に働く女性の「忙しくて毎日の食事に妥協したくない」というニーズに応えるため、Oisix基準を満たした安心安全な食材を使い、5種以上の野菜がとれる主菜と副菜の2品が20分で完成する献立キット「Kit Oisix(きつとおいしくす)」の展開を開始しました。

■ 参考) ウィルチェアーラグビーについて

<ウィルチェアーラグビーの歴史やルール>

ウィルチェアーラグビーは、四肢麻痺者等(頸椎損傷や四肢の切断、脳性麻痺等で四肢に障害を持つ者)が、チーム・スポーツを行う機会を得るために 1977 年にカナダで考案され、欧米では広く普及している車いすによる国際的なスポーツです。

当初はその競技の激しさから“マルダーボール(MURDERBALL(殺人球技))”と呼ばれていた歴史を持っています。初の国際大会は 1982 年、アメリカとカナダの間で行われました。1996 年のアトランタ・パラリンピックではデモンストレーション競技として初登場し、2000 年のシドニーパラリンピックからは公式種目になりました。

競技には、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、アイスホッケー等の要素が組合せられており、バスケットボール用のコートで行われます。

1 チームは 4 名の選手で構成されます。選手は、車いすの操作やボールを扱う能力(障害のレベル)により 0.5 点、1.0 点、1.5 点、2.0 点、2.5 点、3.0 点そして 3.5 点の 7 クラスに分類され、競技中のコート上の 4 選手の持ち点の合計は 8.0 点を越えてはいけません。

得点は、ボールを持ったオフェンス側の選手の車いすの 2 輪がゴールラインに達するか通過することにより与えられます。

ルールではタックル(相手の車いすに自分の車いすを衝突させたり引っかけたりすること)により相手の攻撃や防御を阻止することが認められています。

<車いす同士がぶつかり合う激しい競技！ウィルチェアーラグビーの特徴は？>

ウィルチェアーラグビーは“ラグビー”という名前が示す通り、車いす競技のなかでは唯一、車いす同士で激しくぶつかりあう「タックル」が認められていて、試合中は衝突音が何度も響きます。車いすごと選手が転倒することも当たりまえ。時には金属同士の摩擦で火花が散ることもあり、驚かされます。ただし、一般のラグビーとは違い、バスケットボールのように前にパスすることもでき、味方同士のすばやい連係でゴールを狙うスピード感も魅力です。

一般に、障害が軽く持ち点の高い選手はハイポインターと呼ばれ、豊富な運動量でボールを運び、主に得点源としての役割を担います。逆に障害の重いローポインターは体を張って敵を止め、ハイポインターの走路をつくる守備を主に担います。

そして、ハイポインター用のラグ車は狭い走路もぐいぐい突き進めるよう、コンパクトな丸いフォルムをしています。一方、ローポインター用はバンパー部分が前に突き出したL字型で、相手の動きをブロックしやすい形が特徴です。

このように障害別に役割がはっきりと決められているため、障害の重さにかかわらず参加できることもウィルチェアーラグビーの大きな特徴です。

<世界ランキング 3 位！ウィルチェアーラグビー日本代表について>

ウィルチェアーラグビーは、2000 年シドニー大会からパラリンピックの正式競技に採用され、日本代表も 04 年(アテネ)から 3 大会連続で出場しています。特に 12 年ロンドン大会では過去最高位の 4 位になりました。

世界選手権は 10 年のカナダ大会で初の銅メダルに輝き、14 年デンマーク大会でも 4 位と安定した強さを見せ、世界ランキングは 3 位につけています。

本年 6 月に行われたカナダカップ国際ウィルチェアーラグビートーナメントにて、世界ランキング 1 位のカナダに日本が初勝利をしました。今後の様々な国際大会でのメダル獲得の期待も高まります。